

【審査員・講評】（敬称略、順不同）

喜多俊之（審査委員長）、内藤廣、小泉誠、永山祐子、の4氏を審査員として厳正なる審査を行いました。審査講評をここでご紹介いたします。

喜多 俊之 審査委員長（プロダクトデザイナー・LIVING & DESIGN 総合プロデューサー）

サステナブルという言葉が行き届き、それらが生活文化をはじめ、産業経済、ものづくりと、広く地球全体を捉え、世界の人々の意識が高まる上に、それらに対する取り組みやも盛んである。今年度の「木材を使った家具のデザインコンペ」応募作品には、新しいコンセプトを意識しているものが多く存在していた。作品それぞれに宿る多くのデザインの要素には、今ある課題に対する思考と提案、次世代への思いが感じられ、生活環境や家具製作に対して、これ迄と大きく変化していることが伺える。デザインという言葉には使用する側と生産する側、そして時代の要求に応えるといった大切な要素も含まれる。素材の特徴を捉え、それに機能を持って形成される中、使用する側と作る側や時代を反映するバランスなど、多くの動機が存在する。今度は、グローバル市場も考慮に入れた作品も目立った。

小泉誠（家具デザイナー）

今回も多くの家具を「木材を使った家具らしさ」を見つけながらじっくりと拝見しました。作品応募総数 238 点と回を重ねるごとに増え、木に対する意識が年々増していると感じました。応募作品の中には、すぐにも商品化できそうなものも多く質の高さを感じたと共に、商品では表すことのできない、記憶・質感・環境・感覚など、木に関わることで創出される情緒的な提案も多く、心をときめかせてくれました。そして、今回入選した KOROKO RAIL のように建築に取り付く手すりも「家具」として応募され、評価されたことも、このコンペの広がりを感じるいい成果だったと思います。

【お問合せ】

株式会社フレーズクレーズ 家具コンペ 2024 事務局 frazeczraze.publish@gmail.com

※課題および審査についての質疑応答、ならびにお電話での対応はいたしかねますので、予めご了承ください。

内藤廣

（建築家・東京大学名誉教授・多摩美術大学学長）

木製家具という存在は、人の暮らしの身近にあり、人が触れ、歳月を過ごし、人と共に老いを重ねていくものだと思っています。すなわち、人間という不確かな存在の尊厳に関わっているのです。そうでなければ、量産される安価な工業製品に代わるだけの価値はありません。このコンペの審査委員をさせていただいて、いつも考えることです。応募作は年を追うごとに全体的なレベルが高まっているのを感じています。ただの思いつきや面白いだけの提案はありません。そのまま実現化してもおかしくないようなものばかりです。その意味で、グランプリになった Pear Chair は、オーソドックスでありながら新しい面白さを持つ優れた案だと思います。気になったのは、銀賞の Slits stool でした。木の新しい性格を引き出していますが、これが本当に可能なのか、使われる中で問題は生じないのか、など考えてしまいます。新しい挑戦なので、これら心配事を克服して実現化してほしいと思います。入選の tender も気に入りました。コルクは可能性がある素材だと思うし、このさりげない使い方に好感を持ちました。入選の中のもう一つのコルク材の提案、CORKCHAR。子供のことを考えると、安全でありながら優しいこの形は良い提案だと思いました。

永山祐子（建築家）

今回の提案は総じて完成度とリアリティの高い提案が多かった印象を受けた。特に上位に入選した作品は奇抜なアイデアでただ目を引くだけではなく、素直に素材、構造、デザイン、使われるシチュエーションに向きあった作品が多かった。個人的に心に残った提案をあげると、銅賞の Roots は炭化した木の楔形ベンチを地面に打ちつける提案はこんな表現の家具もあったかと驚かされた。また銀賞の木のツールという通常は固いベンチを新しい木の加工方法によって、オール木でも柔らかく身体を受け止めるツールを作ってしまうというチャレンジな提案となっていた。この審査の難しいところは実物を見ずに書類で審査をしなければならないところであるが、入選を果たしたどの提案もぜひ実物を見てみたいと思った。

木材を使った家具のデザインコンペ

Wood Furniture Design Competition 2024

主催：東京インターナショナル ギフト・ショー LIVING&DESIGN

趣旨

私達の地球には多くの森が散在しています。日本にも国土の約 70%、森が存在しています。森の木々から、住まいや家具などに使われるまでには、伝統的な匠達の知恵が活かされています。そして、そのプロセスと技術からエコ文化の土壌が創られてきました。この豊富な資源を活用する手立てとして、培われた技術にデザインの力を加えて、広く世界の人々に知ってもらえるオリジナル性の高い、高品質な製品づくりを目指したいものです。このたび、過去 7 回に引き続き、木材家具のコンペを開催いたしました。

【テーマ】

「木材を使った家具」をテーマに、未発表の作品（キャビネット、テーブル等）を対象とし、アイデアだけではなく、実際に制作可能な提案を募集しました。針葉樹あるいは広葉樹のどちらを用いるか、また、木材の生産地域などについては問いませんが、各素材の特性を活かした作品を期待しました。



2024年9月4日 表彰式

